

2026年度大阪公立大学公開講座



《マリー・デュプレシの肖像》
エドゥアール・ヴィエノ(制作年不詳)



《若いクルチザンヌ》
グザヴィエ・シガロン(1822)

「クルチザンヌ」 (高級娼婦)の物語 を読み直す

講師 村田京子
大阪府立大学 名誉教授



詳細は裏面をご覧ください ▶

2026年

5月13日(水)～7月29日(水) 14:30～16:00 毎週水曜日・全10回 ※5月20日を除く

- 会場：大阪公立大学 I-site なんば 2階 (大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル)
- 定員：60名 (申込者多数の場合は抽選) ■ 対象者：どなたでも ■ 受講料：7,000円 (全10回分)
- 申込方法：下の(1)(2)いずれかの方法でお申し込みください。お一人様につき、一回のお申し込みが必要です。
 - (1) 申込フォーム：本学Webサイトまたは右記二次元コード「申込フォーム」からお申し込みください。
 - (2) 往復はがき：往信用はがきに①氏名(フリガナ)、②年齢、③郵便番号・住所、④電話番号、⑤このチラシの入手先 をご記入の上、下記宛先へお送りください。

申込締切
4/19(日)
必着

※返信用はがきは両面とも白紙でお送りください。

(宛先) 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル

大阪公立大学 産学官民共創推進室「クルチザンヌの物語」係

※受講の可否は 4/28(火)までに通知します。届かない場合は必ずお問い合わせください。

■ 問合せ先：大阪公立大学 産学官民共創推進室 社会連携担当 Tel 06-7656-5112 Fax 06-7656-5203

申込フォーム▼



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

大阪公立大学 生涯学習・公開講座Webサイト▶

大阪公立大学公開講座

検索

※お申込みの際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。



講義概要

19世紀フランス文学において、クルチザンヌは重要な位置を占めています。娼婦を扱った『マノン・レスコー』『椿姫』『レ・ミゼラブル』は日本で良く知られた作品ですが、読者はそれが「男の視点」で描かれていることに気づかないことが多いと思います。本講座は、発想を転換して「女の視点」からクルチザンヌの物語を読み直す試みとなっています。



講師:村田 京子
大阪府立大学 名誉教授

講義スケジュール

第1回
5月13日(水)

売春の歴史

古代ギリシアから18世紀フランスにおけるまで、西欧における娼婦の歴史について簡潔に触れます。

第2回
5月27日(水)
第3回
6月10日(水)
(振替)

アベ・プレヴォーの『マノン・レスコー』

小説の主人公マノンは、「恋するクルチザンヌ」（真実の愛に目覚めた娼婦が悔悛して苦難の道を歩み、罪を償って死ぬ）の原点とみなされています。ロマン主義文学の先駆けとされるこの小説において、マノンがどのように描かれているのかを探っていきます。

第4回
6月17日(水)
(振替)
第5回
6月24日(水)
(振替)

アレクサンドル・デュマ・フィスの『椿姫』

『マノン・レスコー』から大きな影響を受けたデュマ・フィスの『椿姫』を取り上げ、両作品を比較しながら、その共通点、相違点を明らかにします。とりわけ、時代背景（18世紀の摂政時代のフランス社会と19世紀のブルジョワ社会）の違いに焦点を当て、ブルジョワ道徳に基づく娼婦像をクローズアップしたいと思っています。

第6回
7月1日(水)
(振替)

ジョルジュ・サンドの『イジドラ』

デュマ・フィスの『椿姫』には実在のモデル（マリー・デュプレシ）が存在していましたが、サンドの『イジドラ』も同じ女性をモデルにしています。しかし、その内容や結末は全く異なるものです。「女の視点」から描いた娼婦像がどのようなものなのかを明らかにしていきます。

第7回
7月8日(水)
(振替)
第8回
7月15日(水)
(振替)

ウージェーヌ・シュアの『パリの秘密』

19世紀後半のフランスでは、貧困に喘ぐ人々を社会の犠牲者とみなし、博愛主義的な立場から社会を改善していこうとする「社会主義」の考えが広がりました。「社会主義」の影響を受けて書かれた小説が「社会小説」と呼ばれています。その代表作であるシュアの『パリの秘密』を取り上げ、「社会小説」に登場する娼婦像を探っていきます。

第9回
7月22日(水)
(振替)
第10回
7月29日(水)
(振替)

ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』

ユゴーの『レ・ミゼラブル』も「社会小説」の範疇に属し、主人公のジャン・ヴァルジャンが育てるコゼットの母親ファンチーヌが娼婦として登場します。その娼婦像をユゴーの女性観や政治観に照らして探ると同時に、ユゴーの初期の作品から『レ・ミゼラブル』にいたる娼婦像の変遷を辿っていきます。

※感染症の流行や自然災害等の影響により、日程・開催方法・講座内容等が変更となる場合があります。